

「懲戒免職
処分」の不
服申し立て

書きたるは「誘拐未遂」の容疑者！「本人申請」の懲戒免職！

大変ご無沙汰しています。「かわせの会ニュース」の創刊号をお届けしてから丸1年の月日が流れました。

気になりながらも、「少し見通しがついてから」と思っているうちに、今日になってしまいました。

この1年の出来事をわずかな文字数でお知らせすることは、なかなか困難なことですが、できるだけ簡潔に、かつポイントを絞ってお伝えします。

処分は、「誘拐未遂」が成立するかどうか」とか「起訴されたからではない。」

メディアに騒がれたから！

川瀬正博さんは、一昨年11月に大阪府教育委員会が行った「懲戒免職処分決定」への不服申立書を提出。彼の思いを受け、承継代理人の中北・川端弁護士と田中（か

わせの会事務局）は、妻の弘美さんや学校の同僚をはじめ、川瀬さん周辺の人たちから「聞き取り」を行いながら、「処分」の不当性を訴え、その決定を覆すべくこれまで3回の「反論書」を府人事委員会に提出してきました。

「反論」に対しては、「再答弁書」をその都度府教委は返してきていますが、内容は回を重ねるごとに粗雑なものとなっています。

府教委は、「懲戒免職処分を行ったのは『起訴』されたからではない。独自の判断を行ったとしてきました。

第3者を「実力支配下」に置くこと、「保護監督者の保護下にある児童を引き離す行為」で、このことだけでも「誘拐未遂」が成立立つとして、懲戒免職処分決定の一つの理由にしてきました。

そこで、私も承継代理人側は、

「道を迷って人に尋ねる」ことは、ごく普通のこと。「乗って案内してもらったら、お小遣いとして（2人に）1000円あげる」といったことが「誘拐未遂」が成立する

のかと反論。まして、「道案内を断られた」あと、それ以上をお願い

をしないで別れている。無理やり車に乗せようとした行為はない。

本人は、当初から「誘拐の意思など全くなかった」とずっと主張し

続けてきている。「実力支配下に置いている」「高学年の児童は家を出たら実質的に保護者の監督下がない」ということも含めて反論。

その結果、府教委はこの反論に答えられなくなったのでしよう。

06年4月10日の再答弁書からは、「誘拐」「誘拐未遂」に関する記述がぐんと少なくなる。あぐくには、「免職処分」をしたのは、「起訴されたからではない」の従来姿

勢に加えて、「誘拐未遂容疑が成立するかどうかではない。」と論調を変えてきました。それなら、何故、懲戒免職処分を行ったのか。

直近の答弁書では、「公務員の信用失墜行為」を強調する。世間を騒がせたということのようです。

悔やまれる初期対応!!なぜ、彼を信じてあげなかったのか!

騒いだのは本人ではなく、メディアであり、校長や池田市教委では。不審者情報の車ナンバーが川瀬さんの車だと判明したときに、「何かの間違いでは」の思いがあったら。心や体を病ましていた彼を思いやる気持ちが少しでもあれば、「警察に差し出す」ようなことはしなかったでしよう。進んで記者発表なんかをすることはなかったでしよう。

なぜ、彼の言い分を聞いてあげなかったのか。



「初期対応の間違い」。それを、メディアが話を大きくし、「早くけりをつける」こと＝処分になったといえます。

府教委「突然作成した「処分基準」を答弁書に盛り込む!」

府教委の答弁書の「処分理由」は、「誘拐未遂」より示談成立した「アンテナ窃盗」に重点を移してきました。

川瀬宅の前にある展示駐車場。そこにある1台の車のアンテナを触っていると抜けてしまい、そのまま家へ持ち帰る。これは「窃盗行為」ですが、このことは、池田警察署が間に入って、「示談成立」。川瀬さんは、定価1万5千円のアンテナを、長い間車を寝かしたと相手側に主張され、1ヶ月後には40万円を超える膨大な示談金を支払っている。

その時、担当した警察官は妻に「彼は病気や。早く医者に診せた方がいい」とすすめている。また

「このことは、内々にしておきましょう」とも言っています。

この「アンテナ事件」に関して、府教委は答弁書で「窃盗だけでも懲戒免職できる」と述べ、「彼は病気ではない」と。

法を遵守すべき大阪府教育委員会は、今日まで独自の「基準」を持つことなく公務員処分を行ってきました。ところが、突然本年3月30日に「06年4月1日以降事案」から適用するという「処分基準」を作成。



我が方の反論に対する再答弁書を府人事委員会に提出したのが、4月10日。その日は処分基準発効の僅か10日後。確実に意識しての「基準」作成であるといえます（「大阪府教育委員会」）

のHPにこの「基準」が掲載されていますので、是非ご覧ください。（）

処分基準の「基本事項」で情状酌量に値するかどうか、「所属長への報告」と入れ、「公務外」での免職の一例のトップに「窃盗」を持つてきている。

こともあろうに、ほぼ2年前の事案である川瀬処分に、この「基準」を持ち出し、引用しようとしていました。

我が方は、「処分」の根拠づけとして「2年後発効の基準」を使っていることを指摘すると、直近の再答弁書では、「当該処分基準を参考とすることが許されるかどうか等の問題は不要な論議」と意味不明な内容を並べています。

川瀬さんの逮捕容疑はもとと「誘拐未遂容疑」。この容疑では起訴やその後の公判維持ができないと考えた警察側が、「アンテナ窃盗」を加えたと考えられます。「昨年3月27日の「かわせの会」発足

会」で前任弁護士談



このことも反論書で指摘。「窃盗」の事実は彼も認め、多額な示談金を払い、十分なる制裁を受けている。彼が多くの仕事を引き受け、持ちきれずに精神的に追い詰められていたことから起こしてしまったこと。

このことで懲戒免職というもっとも厳しい処分を行うのは、「見せしめ」的意図を感じると反論しました。

当時、川瀬さんが抱えていた仕事。

- ◆ 5年担任
- ◆ 市教育研究会社会学部の責任者
- ◆ 府社研理事
- ◆ 教科書検定の担当
- ◆ 幼、保、小連絡会代表役員
- ◆ 組合の副執行委員長

**病気のことは、校長も教頭も
知って、周辺の多くの方が知って
いた。**

04年の春休みは、普段と変わらぬ彼の姿がありました。いつものように多くの卒業生が、彼の家に訪れて談笑している。特にこの時期は初孫も生まれ、幸せな彼の明るい声が周辺に聞こえています。

自然学舎の下見に一人で行った頃から彼の様子に変化が生じる。帰りが遅く酒のにおい。更に家でも深酒。不眠、布団に入らず、ソファで。深夜2時の犬の散歩…。教室での喫煙や戸締りを忘れる。

幼・保・小連絡会議直前に夕暮れのグラウンドにてフラフラ一人で遊んでいる姿、手を何度も何度も洗っている姿、いつもは会議の「まとめ役」が、まとめることが出来ずにうろたえている姿…。道で出会った卒業生の親が、声をかけられない程に衰弱しきった彼の姿をみているのもこの頃である。「変化を案ずる」教頭からの手

紙と本を妻がみつけ、学校へ電話。「何かありましたか？」と。その際に、「病院へ行かせた方がいいですか」と心配する妻に、「その方がいいです。学校の方は気にされずに」と教頭は答えています。アンテナ事件は、この頃におこしている。

府教委(2人)は04年8月3日に豊能警察署内で池田市教委の立会(1人)のもと、川瀬さんに事情聴取。ここで「あなたは精神的な病気だったのか」と聞いているが、彼は「病気はありません」と答えています。

府教委は、この川瀬発言を「病気でない」根拠として、正常なのに窃盗をやった＝公務員の信用失墜行為として、もう一つの処分理由としたのです。

逮捕以降、家族以外は誰も面会に訪れていない。一人たたかっている川瀬さんにとっては、「精神的に参っていた」なんて口にしたら、

自分がどうされるか分からない不安の中にあつたはずですが。

**府教委が処分根拠とした事情聴取に弁明の余地を与えず！
豊能警察とわずか20分間。**

「明日から学校へ来なくていい」。これは、学校長・教頭が車のナンバー確認後、彼に発した言葉。さらに翌日、妻に向かって「こんなことをしたのだから、懲戒免職の覚悟を」と言っている。先にも書きましたが、学校長の初期対応がことを大変な方向に進めさせることになる。このことが、池田市教委→マスメディア→池田、豊能警察そして府教委の判断まで、ずっと影響することになった。新聞は、「安全メール第1号成果」とも報じる。

8月3日の府教委が彼に行った事情聴取時間はたったの20分。(処分者の府教委は30分だったと主張するが、大差ない。)
それも、あらかじめ用意した質問状を読み上げる調子で行っていた。

ます。(彼が弁明する時間は全く保障されていない。)

府教委は、質問で用意していたことで聞いていないことがたくさんあった(回答箇所が斜線を引かれている)が、そのことを我が方が指摘すると、「質問内容が事実と違っていた」と答弁してきています。

「あなたに対しては、教育委員会として厳しく対処せざるを得ないが、何か弁明は？」に、川瀬さんは「誘拐の意図はありません」とはつきり誘拐罪の成立を否定している。にもかかわらず、「誘拐の着手になることは認めますか。」とあらためて聞いている。「着手」の意味が理解できない彼に、決め付けの誤導質問を行っています。

承継代理人は、近々4度めの反論書を提出します。その後は、証人申請段階に移る予定です。この取り組みを注視してください。そして、在りし日の川瀬さんにかかわる「情報」をお寄せください。

いつも子どもたちと一緒に。笑って、はしゃいで... あの日、あの時。思い出は写真の中に！！



「かわせの会」事務局への
連絡は、
072-752-4717
(電話／FAX)田中まで。



HPアドレス <http://www.geocities.jp/kawasenokai/> メール kawasenokai@yahoo.co.jp

※この「通信」で使った「川瀬さんイラスト」は卒業生が彼に送ったアルバムの中
にあったものを借用しました。